

学校法人 内田学園 七沢希望の丘初等学校

ぼちぼちいこか

学校だより 1 月号

2026.1.8 発行

教育理念

生きる喜びを抱き
自ら学びを拓く

人間万事塞翁が馬

校長 大谷 京司



人が生きていくうえでは、当然のことながら良いことも悪いこともあります。奢ったり慢心したりすることで事態が一転して悪い方へ転がり落ちてしまうこともあれば、ピンチの時にも腐ったり屈したりすることなく努力を積み重ねることでやがてチャンスを掴み、どん底から抜け出して成功に結び付くこともあります。日々の小さな幸せに喜びを感じながら、一喜一憂せず今年も着実に歩みを進めていきたいと思います。

4・5年生の新リーダー発進 ～遠足～

澄み切った青空のもと、「こどもの国」に遠足に行って来ました。この遠足の直前に、6年生から4・5年生へのリーダーの引継ぎも行われ、6年生のサポートのもと、実践が試される舞台となりました。

広大な敷地の中で、事前に新リーダーを中心に自分たちが決めた場所に地図を片手に回って行きました。長いすべり台をお尻が痛くなりながらも何回もトライしてみたり、不安定なドラム缶いかで池の中を巡ってみたり、おっかなびっくり動物に触れてみたりと様々な体験もできました。そうした中で、新リーダーは時間を意識しながら次の行動を促したり、皆の意見に耳を傾けたり



と、その責任を全うしようとよく努力していました。子どもたち同士の絆も深まった大変良い機会となりました。

児童会選挙

12月4日(木)、4・5年生による新たな児童会役員を選出するため、選挙を行いました。立候補者たちの演説はどれも学校を楽しくみんなが活躍できるような場にしていきたいといった前向きのもので、大変素晴らしいかっと思ひます。厚木市選挙管理委員会から本物の選挙物品もお借りして、小学生ながら、実際と同じように投票まで行うことができました。





クリスマス会

さあ、これから一体何が始まるのだろうかという会場の張りつめた空気の中、澄み渡る美しいベルの音が響きます。



12月13日(土)、5・6年生によるハンドベル演奏を皮切りに、今年も多くの保護者の皆様に見守られる中、クリスマス会を開催することができました。

クリスマス会では、主に外国の文化を意識して、歌や劇、スピーチなどを行いました。

オープニングのハンドベル演奏の後は“Feliz Navidad”の全員合唱・合奏。スペイン語の“Feliz Navidad”は「メリークリスマス」という意味ですが、途中から小さな楽器をみんな手に持って全員で楽しくクリスマスを祝いました。

今年もスペシャルゲストとして、シンガポール日本人学校に赴任している水谷先生に多文化からなるシンガポールでのクリスマスの様子をクイズ形式で伝えてもらいました。その後は、低・中・高学年ごとに3人のネイティブの先生方に指導を受けた英語による劇やスピーチとなりました。

第2部では、児童会による進行で、子どもたちから手作りのクリスマスカード

が保護者に手渡された後、保護者会のエスポワールからも給食時に使う、食器がすべらないトレイがプレゼントされました。

外は冬の冷たい風が吹いていましたが、会場の中は気持ちがほっこりとあたたかくなった半日となりました。



車いすバスケットボール体験講座

日本車いすバスケットボールアカデミー代表理事の熊谷昌飛氏(クマちゃん)を講師にお迎えして、車いすバスケットの体験授業を行いました。

日常で使っている車いすと車いすバスケットで使っている車いすの違いや、試合での素早い方向転換の方法などを詳しく説明していただきながら、子どもたちも自ら体験することができました。

試合では、頭で思っているのと反対方向に車いすが動いてしまった、力いっぱいシュートをしたけど届かなかったなどの感想が聞かれました。

クマちゃんからは、お店で手が届かない商品などを取ってもらったりするとすごくありがたいなどのお話もいただき、改めていろいろな立場の人と暮らしていく人権意識を高めるきっかけとなりました。



人形劇

地域で活動されている人形劇サークルひよこの皆様により、人形劇「三枚のお札」を上映していただきました。

やまんばが登場する場面では、銅鑼が大きく響き渡り、子どもたちもびっくり。劇の終了後には、直に手作りの人形を見せてもらったり、触らせてもらったりしてさらに親しみを抱いていたようでした。

